

MACF礼拝説教要旨

2022年7月31日

【休むということ】

ルカによる福音書

9:10 使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼ら連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。

並行記事

マルコによる福音書

6:30 さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。

6:31 イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。

6:32 そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行った。

夏休みの時期を前に、少し「休むこと」について語ってみたいと思います。

先週、弟子たちが出かけていったことについて語りました。それらの働きは多くの方々への奉仕活動であり、食事をするヒマもないほどの働きでした。

権威をイエス様から受け取り、神の国の宣教をして帰ってきた弟子たちの肉体的な、精神的な疲れはどれほどだったかと思います

人との関わりの中での奉仕、「疲れ果てた人たちへの祝福の提供」といえば、耳障りはよいですが、実際問題としては、本当に力を吸い取られるような働きです。

神様からの支えがあるからこそ可能な働きとも言えるかもしれませんがイエス様は彼らの働きを受け止め、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と指示されました。

「休むことの必要性」

「休む」という表現で考えると
創世記の2章に

2:1 天地万物は完成された。

2:2 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた。」

安息という言葉と休むという言葉がすべてが同じわけではないのですが6日間での「創造の仕事を離れ、安息された」とありますから創造の仕事を離れたわけです。

それによって別の方向を向いて「創造」を吟味し、さらに素晴らしい出来事とするためにまた、そこに戻るわけです。

弟子たちは「静まりの時を持つために人里離れた場所」に行きました。

それはこのあとの活動のための「力を得る」ためでした。

日本語では「退修会」英語ではリトリート (Retreat) と言われています。

リトリートとは、数日間住み慣れた土地を離れて、仕事や人間関係で疲れた心や体を癒す過ごし方のこと。

観光が目的の旅行とは違い、日常を忘れてリフレッシュすることを目的としています。

また、仏教にもリトリートの考え方が存在していて「ヴィパッサナー」と呼ばれインドのもっとも

古い瞑想法のひとつがそれです。

ヴィパッサナー (Vipassana) とは、「物事をあるがままに見る」という意味があります。

外界とのコミュニケーションを一切経ち、いま、この瞬間に意識を集中することで、ありのままの自分に気づくというものです。

いわば黙想による「心の集中」であり、「物事の本質についての気付き」を得るというものです。

ですから、弟子たちが人里離れた場所に行ったというのは「観光」に行ったわけではなく

「ひとり神の前に立つ」「自分の心と向き合い、神との関わりを深く味わう」という意味の「休み」をとったのです。

私達にはあまり、そういう休みの習慣はありません。

休みというと、肉体的な休養、あるいは、観光による気分転換や美しいもの、美味しいものとの出会いということかもしれません。

それらのこともとても大事なものだと思います。

でも、イエス様は弟子たちに対して「ちょっと観光旅行にでも行ってらっしゃい」とは思わず、

「寂しい人里離れたところでの休みを取るように」「日常を忘れて心をリフレッシュするように」と強いて弟子たちをそこに向かわせました。

おそらく、日常的な意味では「礼拝」は、「まさに、そのための時間」と考えることができるかもしれません。

日常からちょっと気分を変えて、静まり、心をリフレッシュするために、神様への礼拝に集中し、神様からの自分に対するメッセージに期待するわけですから。

肉体的な疲れのためには「少しばかりの運動やお風呂、栄養、そして深い睡眠」が必要でしょう

ね。

精神的な疲れのためには「心地よい会話、笑顔、そして気分転換としての散歩や旅行」などがあるかもしれません。

しかし、人間関係による疲れ、奉仕活動、慈善的な活動、宗教的な活動による疲労感は複合的な要素があって、割り切れるものではありません。そこでリトリートの要素が重要になってきます。

一人になる時間が重要なのです。

でも、ボンヘッファーという神学者がとても重要なことを書いています。

「ひとりであることの出来ないものは、交わりに注意せよ。

教会の中になくは、ひとりであることに注意せよ」

私達は、「ひとりである」ということによる充実と「交わりの中にいる」ということによる充足を豊かに味わう必要があります。

どちらかにだけ偏ることは危険です。

また、同時に、片方が出来ないからといって、すねてしまってはならないのです。むしろ、「ひとりである」という中にある豊かな神様の前での静まりを味わうチャンスとして喜んで受け止めることが重要です。

今年に入ってからバイブルワークショップ&メディテーションは「黙想の時間」を取っています。

また、自分と聖書の言葉に向き合う形の時間を取っていて、私の説教は殆どありません。

それは自分自身の心の気付きによる、心の元気回復のための時間にしたいからなのですが

コロナ禍で閉じこもりがちな心を解放し、なんだか休みにくい心に元気をもたらすための方法としてあれこれ考えた末、用いている方法です。

知的な知識吸収型の学びとは全く別のものです。

心が軽くなるための時間として継続しています。

こういう「休み」による効果はご自分で体験して、心の中に深めていくしか方法がありません。他者はあなたの休みをあなたのために取ることができないのです。

今、あなたに最も必要なことのひとつは、そういう「休み」かもしれません。

「一緒に活動する」「誰かと一緒に食事をする」「誰かと集まる」などは自分たちの呼びかけである程度可能です。

でも、活動だけでは「休めない」ことがあるのです。

「一人になってこそ休める安息のとき」が必要だという自覚とそういう休みは可能だということを知ることができますように。

**

マルコによる福音書6章

6:30 さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。

6:31 イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。

出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。

6:32 そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行った。

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/E1a4ZhEQPMI>

今週金曜日にはバイブルワークショップ&メデイテーションがあります。

Zoomによる集いです。

ご希望の方は pastor.kaz@gmail.comまでどうぞ。

時間は

午前10時からと夜8時からです。

同じプログラムです。

*

いつも、励まし、献金などをありがとうございます。7月も終わりますが、皆さま、どうぞお元気にお過ごしください。

関根一夫